

文法メモ

Mémos grammaticaux

※ この「文法メモ」のPDFは、学生用ウェブサイト(<https://www.moije-multimedia.com>)からダウンロードできます。
※ Ces mémos sont disponibles pour les étudiants sur le site du manuel (<https://www.moije-multimedia.com>).

Leçon 1

フランス語の基本

Variations de base du français

→ 教科書 pp.12 – 15

■ 発音のメモ Prononciation

1. フランス語の母音は日本語よりも数が多く、a, à [ɑ/a] i, î, y [i] u, û [y] e[ɛ/e/ə/無音] o, ô [ɔ/o] 以外に、ou [u] や eu, œu [œ/ø]、それに鼻母音 [ɛ̃] [ɔ̃] [ɥ̃] などがあります。また、h はふつう発音されないで、hで始まる語は次の母音から始まるものとして扱われます。(ただし有音のhの場合は例外。)

2. アンシェヌマン、リエゾン、エリジョンの違い

- ・アンシェヌマン：une amie [ynami] (2つの語をつなげて読む)
- ・リエゾン：vous êtes [vu(z) ɛt] (2語をつなげて読むが、その際、新しい音、この例では[z]の音が出てくる)
- ・エリジョン：Il ne est pas ⇒ Il n'est pas (neのeが消えて脱落記号のアポストロフィが付く)

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【主語人称代名詞、男性形と女性形、単数と複数(名詞)、動詞 être】

1. フランス語では人称に応じて動詞が変化します。これを動詞の活用と呼んでいます。また活用されていない動詞の形は不定法と言います。

2. 動詞は活用の仕方から規則動詞と不規則動詞に大別されます。さらに規則動詞は第1群規則動詞(-er 動詞)と第2群規則動詞(-ir 動詞)に分けられ、どちらもほぼ規則的に活用されます。一方、êtreのような不規則動詞の場合はそれぞれの活用を覚える必要があります。

3. il, elle, ils, elles は人も事物も指すことができます。

4. 名詞は男性名詞か女性名詞かのいずれかに決められています。同じ「学生」を言い表す場合にも、男子学生はétudiant(男性名詞)、女子学生はétudiante(女性名詞)が用いられます。また一般に複数形は語尾にsがつきます。但し、語末が「-s, -x, -z」で終わる名詞は単複同形となります。(例：français → français)

また、以下のような例外もありますので注意しましょう。

①語末が -eau, -au, -eu で終わる名詞

→ 「単数形 + x」 (cheveu → cheveux)

②語末が -al で終わる名詞

→ 「-aux」 (animal → animaux)

③語末が -ail で終わる名詞

→ 「-aux」となる単語があります。(travail → travaux)

④語末が -ou で終わる名詞

→ 「-oux」となる単語があります。(chou → choux)

⑤単数と複数で形が異なる名詞

monsieur → messieurs / madame → mesdames,
mademoiselle → mesdemoiselles / œil → yeux

5. 形容詞は、修飾する名詞の性別と数に応じて形が変化します。一般的に、男性単数形が基本の形で、女性単数形として用いるにはeを、男性複数形にはsを、女性複数形にはesをそれぞれ語尾に付け加えます。例外的な変化をする単語もありますが、詳しくはレッスン6のポイント2で学習します。

6. ふつう、フランス語の名詞は冠詞とともに用いられますが、その名詞が職業、身分、国籍などを表わす場合は例外的に冠詞が付きません。

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 不定代名詞 on は「一般的な人」を指すほか、さまざまな人称に代わって用いられます。特に日常会話では nous「私たち」の代わりに on がよく用いられます。on を用いる場合の動詞の活用は il, elle と同じ 3 人称単数形となります。

Ex. 辞書を引いて次の文の意味を考えてみましょう。

On y va ? (→ 解答は50ページ)

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【否定形】

1. フランス語の否定文は動詞を ne と pas ではさみます。ne の後に発音が母音で始まる動詞が来る場合はエリジョン(母音省略)が起きて n' となります。

2. 否定の表現には ne... pas の他にいくつかのヴァリエーションがあります。たとえば ne... plus「もう / これ以上 ... ない」、ne... jamais「決して ... ない」、ne... rien「何ひとつ ... ない」などを用いると、ニュアンスの異なる否定の表現が可能になります。

■ ポイント2：もっと詳しく...

1. 否定の表現にはこのほかに次のようなものもあります。

ne... ni... ni... 「～も、～も、～ではない」

ne... personne 「誰一人～ない」

ne... guère 「めったに～ない」

ne... point 「一つも～ない」

ne... que (qu') 「(que (qu')) の後に示されているもの) しかない」

Ex. 辞書を引いて次の文の意味を考えてみましょう。

L'homme n'est qu'un roseau. (→ 解答は 50 ページ)

Leçon 2

規則動詞の活用と疑問文の形

La conjugaison des verbes réguliers et la forme des questions

→ 教科書 pp.16 – 19

■ 発音のメモ Prononciation

1. 語末の es の読み方：

あくまで発音を判断する場合にかざれば、語末のsは無いものと考えましょう。例えば、tu habitesを例にとると、語末のsではなく、その前にあるeを語末（語末のeは [無音]）と考えて[ty abit]と発音してください。

2. 後ろに同じ子音が2つ続く場合の e は、[ɛ]と発音されます。(elle [ɛl])

3. e+子音+e：

動詞acheter (a/che/ter [aʃɛtɛ]) の je「私は」の時の活用形は j'achète [aʃɛt] となるはずですが、実際にはj'achète [aʃɛt] というようにeの上にアクセント・グループが付きます。これは [e] の音を [ɛ] と発音させるための指示なのですが、そのように操作する理由は ete [ɛt] が発音しにくいので、より発音しやすい [ɛt] に変えるためです。このように e+子音+e の場合は、しばしば è+子音+e という形に変えるか、あるいは子音の後にもうひとつ同じ子音を重ねて e+子音・子音+e とし、eを[ɛ]と読ませて発音しやすくする工夫がされています。

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1：

【第1群規則動詞（-er動詞）の活用】

1. フランス語の動詞の約 90%が -er 動詞だと言われています。例外もありますが、活用のパターンを一つ覚えるだけでほぼ全ての -er 動詞を活用させることができます。

2. -er 動詞を活用させるには、不定法の語尾の er を主語に応じた活用語尾に置き換えます。

3. 活用語尾「-e」「-es」「-ent」は発音しません。発音する活用語尾（「-er」「-ons」「-ez」）と区別するためのコツは、語

尾を発音しないなら活用語尾の前、発音するなら活用語尾にアクセントをつけることです。ふつう、完璧な発音でなくてもわかってもらえますが、この発音は間違えると意味まで変わってしまうので注意が必要です。J'habitais は「住んでいました」（過去）、J'habite は「住んでいます」（現在）という意味になります。

4. 母音や h で始まる活用形は主語の語尾とのあいだで、エリジョン、アンシェヌマン、リエゾンなどが起こります。

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 変則的な活用の er 動詞

発音上の理由から例外的な活用をする-er 動詞があります。発音のメモのうち、e、g、c の読み方についての説明を読めば、このような例外的な活用がどうして起きるのかを理解することができます。(e についてはウェブサイト、c については教科書 p.40、g については教科書 p.44 参照)

acheter ⇒ j'achète

s'appeler ⇒ je m'appelle

manger ⇒ nous mangeons

commencer ⇒ nous commençons

2. 第2群規則動詞（-ir 動詞）の活用

-ir 動詞は-er 動詞について数が多い規則動詞です。finir（終わる、終わらせる）がその代表的な動詞で、以下のように活用します。

finir			
je	finis	nous	finissons
tu	finis	vous	finissez
il	finit	ils	finissent

3. 英語における現在形（～する）と現在進行形（～している、be 動詞 + -ing）は、フランス語では区別せず、両方とも直説法現在を使います。もしそれが継続中の動作であることをはっきりと示したい場合は、「être en train de + 不定法」を使います。

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2：

【疑問文の形と疑問副詞 où / comment / quand】

1. 「はい・いいえ」「A もしくは B」という回答をする疑問文には、丁寧さの度合いによって 3 つの構文があります。

①くだけた言い方：語順は変えずに、文尾のイントネーションをあげて発音する。

②標準的な言い方：語順は変えずに、文頭に「Est-ce que (Est-ce qu')」をつける。

③かたい言い方：主語と動詞を倒置する。倒置した結果母音が連続する場合は、「-t-」を入れる。

2. où「どこ」、quand「いつ」、comment「どのようにして」、combien「いくつの」などの疑問副詞を使った疑問文にも、丁寧さの度合いによって 3 つの構文があります。

① くだいた言い方：疑問詞を文末に置く場合は、主語と動詞は倒置しない。

② 標準的な言い方：「疑問詞 + est-ce que (est-ce qu')」を文頭に置く。

③ かたい言い方：疑問詞を文頭に置いて、主語と動詞を倒置する。

この他に、「疑問詞 + 主語 + 動詞 (Où tu habites?)」という表現もありますが、これは非常にくだいた言い方です。

■ ポイント2：もっと詳しく...

1. 単純倒置と複合倒置

「かたい言い方」の疑問文では主語と動詞を倒置します。ただし、主語と動詞をそのまま倒置できるのは主語が代名詞である場合に限られます。このような倒置の仕方を単純倒置と呼びます。

例：Il est étudiant ? ⇒ Est-il étudiant ?

これに対して主語が名詞の場合は、主語の性・数に応じた代名詞で受け直して、動詞と倒置します。もちろん代名詞が指す主語は動詞-代名詞の前に置いてあらかじめ示しておきます。これを複合倒置と呼んでいます。

例：Paul est étudiant ? ⇒ Paul est-il étudiant ?

2. 否定疑問文とその答え方

① フランス語では、よく否定疑問文を用います。以下のようなニュアンスを表現することができます。

<ある意見に対する驚き>

例：Tu n'aimes pas le natto ? 納豆が好きではないのですか？

<確認>

例：Vous ne comprenez pas ? わからないのですね？

② 否定疑問文で聞かれたことに対して否定的な返事をする場合は、「non」を使います。

例：

- Tu n'aimes pas le natto ? 納豆が好きではないのですか？

- Non. (Je n'aime pas le natto.) はい。(納豆は好きではありません。)

肯定的な返事をする場合は、普通の疑問文で聞かれた時のように「oui」と言うことはできません。代わりに「si」を使います。

例：

- Vous ne comprenez pas ? わからないのですか？

- Si. (Je comprends.) いいえ。(わかります)

この答え方に慣れるために、「non」や「si」の後に文章全体を続けて言うようにするとよいでしょう。

例：

- Non, je n'aime pas le natto. はい、納豆は好きではありません。

- Si, je comprends. いいえ、わかります。

③ 否定疑問文で質問をする場合、「Est-ce que」で始めるのは不自然です。

(x) Est-ce que tu n'aimes pas le natto ?

(O) Tu n'aimes pas le natto ?

Ex. 質問に「Non.」か「Si.」で答えましょう。その後に、()をつけて文章全体を書きましょう。

① Vous n'êtes pas japonais(e) ?

② Vous n'êtes pas marié(e) ?

(→ 解答は 50 ページ)

Leçon 3

疑問詞と年齢の言い方

Les mots interrogatifs et l'âge

→ 教科書 pp.20 - 23

■ 発音のメモ Prononciation

1. 語末の子音 r は多くの場合発音されるのですが、ときには発音されないこともあります。特に - er のときは複雑です。たとえば habiter [abite] のように、- er 型規則動詞の不定法の語末の r は発音されません。また名詞の étranger [etrãze] 「外国人」などでも発音されません。しかし mer [mɛ:r] 「海」など発音される場合もあります。

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【疑問代名詞 qui / que / quoi】

1. 疑問代名詞の qui と que は文の主語を尋ねるとき「誰が / 何が ... ですか？」や、直接目的語・補語を尋ねるとき「誰を / 何を ... ですか？ 誰 / 何ですか？」に使うことができます。

2. qui は次に母音で発音が始まる語が続いてもエリジョンされることはありませんが、que はエリジョンを起こして qu' となります。

3. 疑問代名詞の quoi は「何を？」と尋ねる場合のくだいた表現です。

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 「qui est ce qui」や「qu'est-ce que」など疑問代名詞の標準的な言い方について考えてみましょう。まず、最初の qui / que(qu') は疑問の対象が人か事物かで使い分けられます。人ならば qui (「誰」)、事物ならば que(qu') (「何」) というわけです。est-ce に続く qui / que(qu') は主語について尋ねているのか (「誰が/何が」)、それとも直接目的語や補語について尋ねているのか (「誰を/何を」、「誰/何」) で使い分けていま

す。したがって、qui est ce qui は「人」について「主語」を尋ねているので「誰が」、qu'est-ce que は「事物」について「直接目的語」あるいは「補語」を尋ねているので、「何を/何」となります。もちろん、qui est-ce que は「誰を/誰」、qu'est-ce qui は「何が」と問うことになります。

2. quoi は前置詞を伴って「事物」について尋ねるときにも使われます。(à quoi / de quoi / avec quoi / etc.)

例：Vous parlez de quoi ? あなたは何のことを話しているのですか？

また、前置詞を伴って「人」について尋ねるときには qui が使われます。(à qui / de qui / avec qui / etc.)

例：Tu penses à qui ? 君は誰のことを考えているの？

Ex. ()の中に入る適切な語句を考えましょう。

Elle parle () ?

— Elle parle avec son prof. (→ 解答は50ページ)

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【疑問形容詞 quel と動詞 avoir 、数字 (1-69)】

1. 「何の・どの＋名詞？」と尋ねるときは疑問形容詞の quel を用います。quel を使うのは、例えて言えば、リストから答えを選ぶような質問をするときです。

quelle saison「どの季節？」(4 つの季節からの選択)、quelle région「どの地域？」(いくつかの地域からの選択)、quelle heure「何時？」、quel âge「何歳？」、quel jour / quels jours「何曜日」などがその例です。

2. 疑問形容詞という名称が示すとおり、quel は形容詞なので尋ねる対象の名詞の性別に応じて変化します。また数については、「どれを？」というように一つのものを選択を問うのか、「どれとどれを？」と複数のものの選択を問うのかで使い分けます。

3. avoir は不規則動詞です。「持つ」という意味で使われるほか、avoir besoin de「～が必要だ」のような動詞句や、さまざまなフランス語の時制を使う上で役立つ動詞ですから、ぜひともマスターしましょう。

■ ポイント2：もっと詳しく...

1. avoir を使った動詞句には日常的によく使う表現があります。

avoir besoin de... 「～が必要だ」

例：Tu as besoin de ce dictionnaire ?

avoir faim / soif 「空腹だ / のどが渇いている」

例：Tu as faim ?

avoir chaud / froid 「暑い / 寒い」

例：J'ai chaud / froid.

avoir raison / tort 「正しい / 誤っている」

例：Vous avez raison.

avoir peur de ... 「～が怖い」

例：Elle a peur de l'examen.

2. quel は「どの～？」と尋ねる疑問詞ですが、これとよく似た疑問詞に「どの人？」とか「どの品物？」と尋ねるための疑問代名詞 lequel があります。ちょうど英語の which に当たります。尋ねたい人や品物の性別や数に応じて、男性単数名詞には lequel、女性単数には laquelle、男性複数には lesquels、女性複数には lesquelles と使い分けます。

例：Il y a beaucoup de gâteaux dans la vitrine, lequel préfères-tu ?

ショーケースにたくさんのケーキがあるけど、どれが好き？

Ex. 次の文のフランス語訳を考えてみましょう。

あなたはペン (stylo (男性)) が要りますか？

(→ 解答は 50 ページ)

Leçon 4

不定冠詞と部分冠詞

L'article indéfini et l'article partitif

→ 教科書 pp.24 - 27

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【不定冠詞と部分冠詞】

1. フランス語では、すべての名詞に性(男性・女性)があります。自然に性別があるものは、それにしたがいますが、本来性別のないはずの無生物にも文法上の約束として性が決められています。

2. フランス語の冠詞には、不定冠詞と部分冠詞、そして定冠詞があります。このうち不定冠詞は数えることができる名詞に用い、単数の男性名詞には un を、単数の女性名詞には une を用います。男性名詞も女性名詞も複数になると des を用います。

3. 部分冠詞は数えられない名詞に用いる冠詞で、男性名詞には du、女性名詞には de la が用いられます。いずれも後に母音や無音の h で始まる名詞が続くと de l' という形に変わります。

4. 不定冠詞と部分冠詞にあたるフランス語と英語・日本語の表現を大まかに比較すると、下の表のようになります。

フランス語	英語	日本語
un, une	a	1 つの
des	-	いくつかの
du, de la (de l')	some	いくらかの

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 教科書では数えることのできない名詞として、食べ物や飲み物などの物質名詞が多く取り上げられていますが、それ以外にも、「勇気」や「苦痛」などの抽象的な概念を表すものや、スポーツ、音楽なども数えられない名詞として扱われています。

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【否定の de、量の表現】

1. 不定冠詞と部分冠詞が否定文の中で直接目的語となっている名詞についているときは、すべて de という形に変わります。これを否定の de と呼んでいます。de に続く名詞が母音または h で始まる場合はエリジョンを起こして d' となります。

2. beaucoup de 「たくさんの」、assez de 「十分の」、trop de 「多すぎる」の de の場合も、あとに続く名詞が母音または h で始まる場合はエリジョンを起こして d' になります。また、これらの表現は数も量も表現できるので、数えられる名詞にも数えられない名詞にも使うことができます。

■ ポイント2 : もっと詳しく...

1. peu de と un peu de はいずれも「少量」を言う表現ですが、英語の little / few と a little / a few の関係によく似ています。英語の a にあたる不定冠詞の un がなければ、「ほとんど無い」という否定的な表現になります。一方、un が伴うと「少しならある」という肯定的な表現になります。ただし、peu de は数えられる名詞（数）にも数えられない名詞（量）にも用いることができますが、un peu de は数えられない名詞にしか使いません。数えられる名詞には quelques を使います。

Ex. 質問に対して、「peu de」「un peu」「quelques」のいずれかを使って答えましょう。

Il reste encore du café dans le pot?

(→ 解答は 50 ページ)

Leçon 5

定冠詞

L'article défini

→ 教科書 pp.28 - 31

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【定冠詞：特定の事物を指す場合】

1. 定冠詞は、「あるものを特定して話す」とき (Point 1) や、あるものを「一般的な意味で話す」とき (Point 2) に用います。「あるものと特定して話すとき」の使い方は、大きく 2 つのケースに分かれています。

①1 つしかないものについて話すときに用いる：la lune 「月」、le soleil 「太陽」、l'État 「国家」など。

②何について話しているかがはっきりと分かっているときに用いる：la gare Ueno 「上野駅」のように普通名詞が固有名詞に結びついていて、話題にされている名詞が文脈から明らかに特定できる場合にも使われます。例えば J'habite près de l'université. 「私は大学の近くに

住んでいます」と言えば、ここでの「大学」は話し手が通っている大学であると理解されます。これに対して、J'habite près d'une université. 「私は大学の近くに住んでいます」と言った場合は、この大学は数ある大学の中の不特定の大学を指しています。また、会話では初めて話題にのぼる名詞には不定冠詞や部分冠詞が用いられ、それ以降は定冠詞が用いられることがよくあります。これは、何について話しているのかが話者のあいだで了解されているからです。

例：J'achète du pain et du fromage (部分冠詞) . Le fromage (定冠詞) vient de France.

パンとチーズを買います。チーズはフランス産のものです。

2. 定冠詞は母音（もしくは無音の h）で始まる名詞が後につづくと、なめらかに発音できるようにエリジョンやリエゾンが起こります。

3. 前置詞 à と de が定冠詞の前に置かれると、前置詞と定冠詞のあいだで縮約が起こります。ただし、エリジョンを起こしている定冠詞と名詞の前では縮約は起こりません。

■ ポイント1 : もっと詳しく...

1. 特別な定冠詞の使い方

①大陸名、国名、地方名、山や河川や海の名前には定冠詞が付けられます：l'Asie, la France, la Normandie, les Alpes, la Seine, l'Atlantique など。ただし、普通、町の名前には冠詞はつきません。

②固有名詞に定冠詞複数形がつくと「〜一家」「〜一族」を意味します。Les Dubois 「デュボワさん一家」

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【定冠詞：一般的な事物を指す場合】

1. あるものを「一般的な意味で話す」ときにも定冠詞を用います。例えば Les Français aiment le fromage. 「フランス人はチーズが好きです。」という表現では、定冠詞はフランス人全般とチーズ全般を指しています。特に、aimer 「〜が好きだ」 préférer 「〜の方が好きだ」という動詞には定冠詞がよく用いられます。「私はコーヒーが好きです。」は J'aime le café. (定冠詞)、「私は野球が好きです。」は J'aime le baseball. (定冠詞) というのがふつうです。これに対して「コーヒーを飲みます。」は Je bois du café. (部分冠詞)、「コーヒーを一杯飲みます。」は Je bois un café. (不定冠詞)、「私は野球をします。」は Je fais du baseball. (部分冠詞) となります。

2. あるものを「一般的な意味で話す」場合、数えられる名詞には定冠詞を複数形で使い、数えられない名詞の場合は単数形で使います。例：la cuisine française 「フランス料理」、la liberté 「自由」、les jeunes 「若者」、les Français 「フランス人」など。したがって、boire 「飲む」や manger 「食べる」とともに「飲み物」や「食べ物」が部分冠詞や不定冠詞をとまって用いられている場合には少し注意が必要です。これらの名詞を aimer 「〜が好きだ」などの後において一般的な

意味で使うときは、部分冠詞は定冠詞単数形に、不定冠詞は定冠詞複数形にしなければなりません。

例：Je mange du fromage. / J'aime le fromage.

⇔ Je mange un croissant. / J'aime les croissants.

3. なお、J'aime les lapins. 「うさぎが好きです。」と言った場合は、「うさぎを可愛らしいと思っている」という意味になります。それに対して、J'aime le lapin. 「うさぎが好きです。」と言った場合は、「うさぎを食べ物としておいしいと思っている」という意味になります。冠詞の選択ひとつでフランス語の意味が変わってしまうのです！

Ex. 次の文のフランス語訳を考えてみましょう。

ライオン (lion (男性)) は家畜 (animal (男性) domestique) ではありません。(→ 解答は50ページ)

Leçon 6

所有形容詞と品質形容詞

Les adjectifs possessifs et les adjectifs qualificatifs

→ 教科書 pp.32 - 35

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【所有形容詞】

1. フランス語の所有形容詞は名詞の性別や数に応じて形がかわります。たとえば同じ「私の～」と言いたい場合でも、単数の男性名詞には mon、単数の女性名詞には ma、男性名詞でも女性名詞でも複数には mes を用います。ただし単数の女性名詞であっても母音や無音の h で始まる名詞の場合は、ma のかわりに mon を用います。このような例外は二人称の ton と ta や三人称の son と sa のあいだにも見られます。

2. 三人称の son、sa、ses は所有者が人でも事物でもかまいません。例：les étudiants de l'université → ses étudiants

3. 母音もしくは無音の h で始まる名詞は発音に注意しましょう。リエゾン (mon amie, mes amies) やアンシェヌマン (notre amie) が起こります。

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【品質形容詞】

1. フランス語の品質形容詞はそれが修飾する名詞の性別と数に応じて変化します。この変化は名詞につけて用いる場合(限定用法)でも、êtreなどを介して主語の属詞(英語の補語)として用いる場合(叙述用法)でも同じです。ただし C'est ～. の補語は常に男性単数形です。

原則的に以下のように変化します。

- 男性形 + e → 女性形 (grand → grande)
- 単数形 + s → 複数形 (grand → grands, grande → grandes)

但し、次のような例外があります。

<男性形→女性形>

- ① -e で終わる男性形 = 女性形 (triste → triste)
- ② -en、-on で終わる男性形
→ 女性形は -ne (bon → bonne)
- ③ -eux で終わる男性形
→ 女性形は -euse (joyeux → joyeuse)
- ④ -er で終わる男性形
→ 女性形は -ère (léger → légère)
- ⑤ -el で終わる男性形
→ 女性形は -elle (réel → réelle)
- ⑥ -et で終わる男性形
→ 女性形は -ète (complet → complète)
- ⑦ 例外的な形容詞：vieux / vieille, beau / belle など

<単数形→複数形>

- ① s / x で終わる単数形 = 複数形 (gris → gris, heureux → heureux)
- ② -al で終わる単数形
→ 複数形は -aux (amical → amicaux)
- ③ -eau で終わる単数形
→ 複数形は -eaux (beau → beaux)

2. ふつうフランス語の品質形容詞は名詞の後に置かれますが(後置修飾)、bon (bonne)「よい・おいしい」、petit (petite)「小さい」、grand (grande)「大きい」など、日常的によく使われる短い形容詞には名詞の前に置かれるものもあります(前置修飾)。

■ ポイント2：もっと詳しく...

1. 名詞の前に置かれる形容詞には次のようなものもあります。() 内は女性形です。

beau (belle)「美しい」 nouveau (nouvelle)「新しい」
vieux(vieille)「古い、年老いた」 jeune (不変)「若い」 joli (jolie)「かわいらしい」 mauvais (mauvaise)「悪い・不味い」

2. beau, nouveau, vieuxなどの形容詞は母音や無音の h で始まる男性名詞の前に置くための特別な形を持っています。たとえば、beauを男性名詞単数のoiseau「鳥」に用いるときはbeau oiseauではなくbel oiseauとなります。これと同様にnouveauはnouvel、vieuxはvieilという形を用います。

3. 前に形容詞が置かれた複数名詞に不定冠詞desを用いる場合は、deという形に変わります。

une belle maison「きれいな家(単数)」⇒ de belles maisons

Ex. 下線の語を()の語にして書きかえてみましょう。

une nouvelle voiture (vélo[m])

(→ 解答は 50 ページ)

■ ポイント 2 : 練習問題

単語を入れ替えて、会話の練習をしましょう。

A : Tu aimes bien les maths ?

B : Oui, c'est intéressant.

A : Et le prof de maths ?

B : Oui. Il est gentil.

1.	<u>les maths</u> / <u>intéressant</u> 数学 / 面白い <u>le prof de maths</u> / <u>gentil</u> 数学の先生 / 優しい
2.	<u>la sociologie</u> / <u>facile</u> 社会学 / 簡単だ <u>la prof de sociologie</u> / <u>intéressante</u> 社会学の先生 / 面白い
3.	<u>l'anglais</u> / <u>utile</u> 英語 / 役に立つ <u>la prof d'anglais</u> / <u>sympa</u> 英語の先生 / 感じがいい
4.	<u>le français</u> / <u>intéressant</u> フランス語 / 面白い <u>le prof de français</u> / <u>pas sévère*</u> フランス語の先生 / 厳しくない*

* 否定形 : Il n'est pas...

Leçon 7

直接目的語代名詞と間接目的語代名詞 Les pronoms COD et COI

→ 教科書 pp.36 - 39

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【直接目的語代名詞】

1. 直接目的語代名詞や間接目的語代名詞は、定冠詞、指示形容詞、所有形容詞などをとめた名詞や固有名詞と置き換えることができます。

2. 直接目的語代名詞や間接目的語代名詞はふつう動詞の前に置きます。

3. me, te は母音や無音の h の前ではエリジョンしてそれぞれ m', t' になります。また le と la は l' になります。

4. 三人称の直接目的語代名詞 le, la, les は人でも事物でも受けることができます。その際、もとの名詞の性別や数に応じて le, la, les を使い分けます。ただし、事物を表す名詞を全体でとらえて指す場合は、三人称単数の le, la に代わって ça を用いるのが普通です。三人称複数の les はそのまま使うことができます。

J'aime la natation. → (×) Je l'aime. (○) J'aime ça.

J'aime les chiens. → (○) Je les aime.

■ ポイント1 : もっと詳しく...

1. 直接目的語に不定冠詞、部分冠詞、数詞、数量副詞などの数量表現がついている場合は、直接目的語代名詞ではなく中性代名詞の en を用います。中性代名詞の en は、Leçon 9 で詳しく学びます。ここでは次の例文を簡単に理解するだけで十分です。

例 : Tu as un stylo ? - Oui, j'en ai un.

ペン持ってる?—うん、(一本) 持ってるよ。

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【間接目的語代名詞】

1. 間接目的語代名詞は普通「à + 人」を指します。

「à + 事物」を指す場合は、間接目的語代名詞ではなく中性代名詞の y を用います。中性代名詞 y は、Leçon 9 で詳しく学びます。

ここでは次の例文を簡単に理解するだけで十分です。

例 : Tu écris à ta mère? - Oui, je lui écris souvent.

お母さんに手紙を書いてる?—うん、よく書いているよ

Tu penses à tes examens? - Oui, j'y pense.

試験のことを考えてる?—うん、考えてるよ

2. 直接目的語代名詞と同様に me, te は母音や無音の h の前では、それぞれ m', t' になります。

3. 間接目的語が使えない場合 :

不定冠詞を伴う名詞は代名詞では置き換えられません。

Je téléphone à une prof. → 代名詞なし

■ ポイント2 : もっと詳しく...

1. 直接目的語代名詞や間接目的語代名詞はふつう動詞の前に置きますが、直説法複合過去形などの複合時制の場合は助動詞 avoir の前に、動詞の不定法が助動詞に先行されている場合は不定法の動詞の前に置きます。また肯定命令文では動詞の後ろに「- (trait d'union) 記号」とともに置きます。次の表を参考にしてください。

直接目的語と間接目的語の位置

	直接目的語	間接目的語
現在形	Je le prends.	Je lui téléphone.
複合過去形	Je l' ai pris.	Je lui ai téléphoné.
近接未来形	Je vais le prendre.	Je vais lui téléphoner.
命令形	Prends- le !	Téléphone- lui !

2. 直接目的語代名詞と間接目的語代名詞がともに動詞の前に置かれるときは、間接目的語の人称によって 2 通りの語順に分かれます。間接目的語が一人称や二人称の場合は間接目的語代名詞、直接目的語代名詞の順、間接目的語が三人称の場合はその逆の順になります。

Je te donne ce stylo. → Je te le donne.

Je lui donne ce stylo. → Je le lui donne.

Ex. 下線の語を代名詞にして書きかえてみましょう。

Tu me prêtes ce dictionnaire ?

(→ 解答は 50 ページ)

Leçon 8

強勢形代名詞・前置詞と位置の表現

Les pronoms forts, les prépositions et la localisation

→ 教科書 pp.40 - 43

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【強勢形代名詞・前置詞】

1. 強勢形人称代名詞はつぎのような場合に用います。

①前置詞の後に人称をあらわす代名詞を置きたいとき。

②主語や目的語を強調したいとき。

③C'est ~ の後に人称代名詞を置きたいとき。

このほか Leçon 15 で学ぶ比較級を用いた文や、Leçon 16 で学ぶ肯定命令文にも用います。

2. フランス語ではさまざまな前置詞が使われます。場所や時間、目的や手段などの状況や様態を表現するほか、間接目的語を構成したり、動詞の不定法とともに動詞句として用いたり、他の語句と一緒に前置詞句をつくるなど、そのはたらきはきわめて多彩です。よく使う前置詞を下にあげてみました。

à (場所・時間・所属など) :

à Paris / à six heures / C'est à moi.

de (所有・種類・起点など) :

le chien de Paul / un roman de science-fiction / Elle vient de France.

pour (方向・目的など) :

Nous partons pour l'Italie. / Il travaille pour sa famille.

avec (〜とともに) :

Elle habite avec ses parents.

chez (〜のところで) :

Tu rentres chez toi à quelle heure?

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【位置の表現】

1. 場所をあらわす表現にはよく前置詞の **à** が用いられま

す。**à** は後に定冠詞の **le, les** が来ると縮約されてそれぞれ **au** と **aux** に変わります。ただし、町の名前は通常無冠詞で使われるので縮約はありません。

2. 国名の場合は少し複雑です。男性国名の場合には **au** (**à** + **le**) となります。女性国名や、男性でも母音で始まる国名には **à** の代わりに **en** が用いられ、その際、定冠詞は省略されます。例 : **en France, en Espagne**

大陸名は女性名詞なので、すべて **en** になります。例 : **en Europe, en Amérique, en Asie, en Afrique, en Australie**。またアメリカ合衆国など複数で扱われる国名には **aux** (**à** + **les**) が用いられます。

3. **à** や **en** 以外にも、次のような位置関係を表現する多くの前置詞や前置詞句があります。

dans「中に」, **sur**「上に」, **sous**「下に」, **devant**「前に」, **derrière**「後ろに」, **à côté (droite, gauche) de**「〜の横(右、左)に」, **en face de**「〜の向かいに」, **au milieu de**「〜の真ん中に」, **entre ... et ...**「〜と〜の間に」

■ ポイント2 : もっと詳しく...

1. 東 (**l'est**) 西 (**l'ouest**) 南 (**le sud**) 北 (**le nord**) を示す表現もよく用います。たとえば「フランスの北に」という表現は **au nord de la France**、「フランスの北部に」は **dans le nord de la France** となります。「スペインはフランスの南西にあります」と言いたいときは、**L'Espagne est au sud-ouest de la France** となりますし、「ボルドーはフランスの南西部にあります」ならば、**Bordeaux est dans le sud-ouest de la France** となります。

2. 遠近の位置関係を言うときは **près de...**「〜の近くに」、**loin de...**「〜から遠くに」などの表現がよく用いられます。

Ex. () の中に入る適切な表現を考えてみましょう。
(→ 解答は 50 ページ)

① La Suisse est () de la France.

② Nice est () de la France.

Leçon 9

中性代名詞 **en** と **y**

Les pronoms neutres **EN** et **Y**

→ 教科書 pp.44 - 47

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【中性代名詞 **en**】

1. 中性代名詞と呼ばれる **en**、**y**、**le** は、目的語人称代名詞と同様に、肯定命令文を除けばすべて動詞の前に置かれます。また否定文では動詞とともに **ne.....pas** で挟みます。

2. 中性代名詞 **en** は次のような場合に用います。

①直接目的語が不定冠詞 (**un / une / des**)、部分冠詞 (**du /**

de la)、否定の de、数詞、数量副詞などの数量表現を伴うとき。この場合は直接目的語であっても直接目的語代名詞 (le / la / les) は使われません。

②特定の動詞や形容詞に導かれる前置詞 de と名詞。

例：Je parle de mon avenir.

僕は将来について話しているんだ

→ J'en parle.

Je ne suis pas satisfait d'être à Paris.

僕はパリにいても満足じゃない

→ Je n'en suis pas satisfait.

※ ただし en で受けることができるのは事物を示す名詞だけです。人の場合は de + 人称代名詞強勢形を用います。

Je parle de ton père.

僕は君のお父さんのことを話しているんだ

→ Je parle de lui.

③de + 場所をあらわす表現

例：Il vient de son hôtel.

彼は彼のホテルから来ます

→ Il en vient.

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. s'en aller「～から立ち去る」などのように、特定の表現の中で en が特に意味を持たずに用いられることがあります。

Ex. 下線部を代名詞にして Oui で答える文を考えましょう。

Tu te souviens bien de ton enfance ?

— Oui, _____.

(→ 解答は50ページ)

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【中性代名詞 y】

1. 中性代名詞 y は次のような場合に用いられます。

①間接目的語が à + 事物のとき。

Nous réfléchissons à ce problème. 「私たちはこの問題をよく考えてみます」。

→ Nous y réfléchissons.

一方、à + 人の場合は間接目的語人称代名詞で受けるか、à + 人称代名詞強勢形を用います。

Ils pensent toujours à leur fils. 「彼らはいつも彼らの息子のことを思っている」。

→ Ils pensent toujours à lui.

② à、dans、en など + 場所をあらわす名詞。

Tu vas aller au cinéma ce soir? 「今夜映画に行きますか」

— Oui, je vais y aller.

2. 中性代名詞 y を用いた慣用句には、以下の様なものがあります。

よく使われますので、覚えておきましょう。

① il y a

英語の「there is / there are」にあたり、「～がある」という意味です。

② y aller

「そこに行く」という文字通りの意味になるときもありますが、多くの場合は「始める」「行く・出発する」という意味で使われます。

j'y vais 始めます・行きます (出発します)

vas-y 始めてください・行って下さい

allez-y 始めてください・行って下さい

■ ポイント2：もっと詳しく...

1. 中性代名詞と目的語人称代名詞とが併用されたときは、目的語人称代名詞 + y / en の語順になります。

Je vous remercie de votre lettre très aimable. 「ご親切なお手紙をありがとうございました」。

⇒ Je vous en remercie.

Ex. 下線部を代名詞に置き換えて文を書きましょう。

J'ai aperçu Catherine au cinéma hier.

→ _____

(→ 解答は 50 ページ)

2. 中性代名詞 le は次のような場合に用いられます。(この代名詞は省略されることもあります。)

①不定詞や節が直接目的語になっているとき。

Tu peux venir ici demain? 「明日ここに来られますか」 — Non, je ne le peux pas.

Tu sais où il habite? 「彼がどこに住んでいるか知ってますか」 — Oui, je le sais.

②形容詞や無冠詞名詞が主語の補語になっているとき。

Vous êtes étudiant? 「あなたは学生ですか」

— Oui, je le suis.

Leçon 10

複合過去形

Le passé composé

→ 教科書 pp.48 – 51

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【動詞 avoir を使った複合過去形】

1. 複合過去形は過去の出来事を事実として伝えるための時制です。日本語で言えば、「...をした」とか「...が起った」という表現にあたります。また話題が過去の出来事ではない

場合にも用いられ、英語の現在完了形のように、「...すでに
してしまっている」「...したことがある」という「完了」や
「経験」を言い表すこともできます。

2. ある動詞を複合過去形にするには、助動詞として avoir
か être を直説法現在形で活用させ、本来の動詞は過去分詞
の形に変えてその後に置きます。助動詞に avoir と être の
どちらを用いるかは本来の動詞によって異なりますが、多くの
動詞は助動詞に avoir を用います。

3. 複合過去形の否定文は助動詞 avoir を ne (n') と pas で
はさみます。また単純倒置による疑問文は主語と avoir を
倒置します。複合倒置による疑問文でも avoir だけが倒置
の対象となります。

4. 不定法の語尾がーer で終わる動詞の過去分詞はすべて
ーé になります。不定法の語尾がーir やーdreで終わる動
詞は多くの場合それぞれーi、ーdu となりますが、不規則
動詞にはavoir (eu)やprendre (pris) のように例外的な形の
過去分詞を持つものも多くあるので注意が必要です。

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 複合過去形の動詞に déjà「すでに」、toujours「いつも」
などの副詞を用いる場合は、助動詞と過去分詞の間に置か
ます。J'ai déjà visité la Tour Eiffel.「エッフェル塔にはもう行
きましたよ」

2. 複合過去形の過去分詞に先行して直接目的語が置かれる
場合は過去分詞と直接目的語が性数一致します。性数一致の
仕方は形容詞の場合に準じます。

例：Tu as vu Marie ? — Oui, je l'ai vue. 「マリーに会っ
た？」—「うん、会ったよ」

Veux-tu me montrer les photos que tu as prises à Tahiti?
「タヒチ島で撮った写真を見せてくれる?」

Ex. 下線の語を代名詞にして書き換えてみましょう。

Paul m'a prêté son vélo.

⇒ _____
(→ 解答は50ページ)

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【動詞 êtreを使った複合過去形】

1. 複合過去形で助動詞に être を用いる動詞は、主として
場所の移動を表現する自動詞と代名動詞に限られます。代名
動詞については leçon 13 で学習します。

2. 助動詞に être を用いた場合は、主語の性別や数に過去
分詞を一致させる必要があります。過去分詞の性数変化は形
容詞の性数変化に準じます。原則として主語が男性単数なら
過去分詞はもとの形のまま、女性単数なら e を、男性複数
なら s を、女性複数なら es をそれぞれ過去分詞の語尾に
加えます。

3. avoir を助動詞に用いる場合と同様、否定文では êtreを
ne (n') と pas ではさみます。また単純倒置による疑問文

は主語と 助動詞êtreのみを倒置します。複合倒置による疑
問文でも être だけが倒置の対象となります。

■ ポイント2：もっと詳しく...

1. 助動詞に être を用いる主な動詞。()内は過去分詞。

naître (né) 生まれる ⇔ mourir (mort) 死ぬ

rester (resté) 残る ⇔ tomber (tombé) 落ちる

aller (allé) 行く ⇔ venir (venu) 来る

partir (parti) 出発する ⇔ arriver (arrivé) 到着する

sortir (sorti) 出る ⇔ entrer (entré) 入る

monter (monté) 登る ⇔ descendre (descendu) 降りる

Ex. 次の問いに答える文の空欄を埋めましょう。

① Elle est née en quelle année ?

— _____ en 1980.

② A quelle heure est-ce que tu es venu ici ce matin?

— _____ ici à dix heures.

(→ 解答は 50 ページ)

Leçon 11

半過去形と大過去形

L'imparfait et le plus que parfait

→ 教科書 pp.52 – 55

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【半過去形と大過去形】

1. 半過去形は過去の出来事を状態として、あるいは継続的
な行為として伝えるための時制です。日本語で言えば、「...
でした」とか「...していました」という表現にあたります。
また「よく...したものでした」と言うような過去の習慣的な
行為を言い表すこともできます。

2. 半過去形は動詞の直説法現在形一人称複数 (nous) の活
用語尾からーons を取り除いた語幹に、半過去形の語尾を付
け加えてつくります。ただし nous の活用語尾がーons で終
わらない être は例外で、特別に ét を半過去形の語幹とし
て定めています。

3. 動詞 faire の半過去形の発音は変わっているので注意し
ましょう。 je faisais [fəʒe], vous faisiez [fəʒje], etc.

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 「～してしまっていた」という過去のある時点での完了を
表現する大過去形は、複合過去形のように、助動詞 (avoir、
être) と過去分詞を組み合わせて作ります。助動詞 (avoir か
être) の選択や、être を助動詞としたときの主語・過去分詞
間の性数一致などは複合過去形と同じです。ただ、助動詞
(avoir、être) が現在形ではなく、半過去形で用いられるこ
とが唯一の相違点です。

Ex. () 内の動詞を適切な時制に変えましょう。

Quand je suis arrivé au cinéma hier soir, la projection déjà (commencer). (→ 解答は 50 ページ)

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【過去の時制のまとめ】

1. すでに学んだように、基本的には、複合過去形は「～した」「～が起った」、半過去形は「～していた」という意味で用います。

ただし、複合過去形と半過去形の使い分けは、話し手が過去の出来事をどのように捉えて表現しようとするのかで変わってきます。過去の出来事を「過去の事実の提示」として表現したいのなら複合過去形を、「状態・状況の説明」としてならば半過去形を用います。

J'ai fait du piano pendant dix ans.

「私は 10 年間ピアノをやりました」。

Je faisais du piano il y a dix ans.

「私は 10 年前にピアノをやっていました」。

2. 複合過去形と半過去形の使い分けがスムーズにできるようになるには、たくさんのフランス語の文に触れる必要があります。まずは典型的な文例を覚え、徐々に正確な使い分けを学んでいきましょう。

Leçon 12

近接未来形と単純未来形

Le futur proche et le futur simple

→ 教科書 pp.56 – 59

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【近接未来形、単純未来形の作り方】

1. 「～しようとしている」「～するつもりだ」という意味を表す近接未来形は、助動詞に aller を用いて現在形で活用させ、本来の動詞は不定法のままその後に置きます。

2. -er型規則動詞や-ir型規則動詞の単純未来形は、動詞の不定法に単純未来形の語尾をつけて作ります。不規則動詞の場合は特殊な語幹になりますが、語尾は規則動詞の場合と同じです。したがってjeのときの活用形さえ覚えておけば、ほかの人称も簡単に活用させることができます。

3. 単純未来形の語幹には、以下の様な例外もあります。

- lever → je lèverai

- envoyer → j'enverrai

- courir → je courrai

- attendre → j'attendrai

- prendre → je prendrai

- devoir → je devrai

- falloir → il faudra

- pouvoir → je pourrai

- savoir → je saurai

- voir → je verrai

- vouloir → je voudrai

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 「～しようとしていた」「～するつもりだった」などの過去における近接未来を表現したいときは、助動詞の aller を半過去形で活用させます。

J'allais rentrer chez moi.「家に帰ろうとしていたところでした。」

2. aller + 動詞の不定法という形は、場合によっては近接未来形としてではなく、「～をしに行く」という aller 本来の意味で用いられることもあります。

Michel va chercher son amie à la gare. 「ミッシェルは女友達を駅に迎えに行く」。

Ex. 次の文を過去の近接未来をあらわす文に直しましょう。

Georges va partir pour l'Italie.

⇒

(→ 解答は50ページ)

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【近接未来形と単純未来形の使い分け】

1. 近接未来形はある未来の行為を行うまでの過程を言い表します。Je vais faire mes devoirs ce soir.「今晚、宿題をするつもりです」。これに対して単純未来形は未来の時点での行為を言い表します。例：Je ferai mes devoirs ce soir.

「今晚は宿題をしていることでしょう」。ただしここでもやはり典型的な言い回しがあります。「近接未来形と単純未来形のおおまかな使い分け」に示されている文章を暗記して、言いたいことがあるときにそれを参考にするのがよいでしょう。

■ ポイント2：もっと詳しく...

1. 近接未来形や単純未来形のほかに、未来のある時点における完了「～してしまっているだろう」を言い表す前未来形があります。作り方は複合過去形や大過去形とほぼ同じで、助動詞 (avoir, être) を単純未来形にして、本来の動詞の過去分詞と組み合わせます。助動詞 (avoir, être) の選択や、être を用いた場合に生じる主語と過去分詞の性数一致など、基本的な考え方は変わりません。

Ex. 次の文を前未来形を使って書き換えてみましょう。

Il (finir) son travail avant midi.

⇒

(→ 解答は 50 ページ)

Leçon 13

代名動詞

Les verbes pronominaux

→ 教科書 pp.60 – 63

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【代名動詞の作り方】

1. 代名動詞は主語を目的語とする代名詞を伴って用いられる動詞を言います。その多くは主語の行為の結果が主語自身に及ぶことを言い表わす使い方で、再帰用法と呼ばれています。例えば、je me promène. という文は「私は私自身をさまよわせる (promener)」という意味から、「私は散歩をする」という表現に用います。

2. 代名動詞の3人称の目的語代名詞はすべて se という代名詞が用いられます。直接目的語の le, la, les や間接目的語の lui, leur は用いられません。Il aime se promener. 「彼は散歩をするのが好きです」。また、否定形は代名詞と動詞を ne... pas ではさみます。Je ne me promène pas. 「私は散歩しません」。

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 代名動詞には再帰用法のほかに、「お互いに～しあう」という意味を表わす相互用法 (Ils se parlent souvent. 「彼らはよく話し合います」) や、「～される」という意味の受動的用法もあります (Le français se parle au Canada. 「カナダではフランス語が話されています」)。また se souvenir de... 「～を覚えている」のように代名動詞としてのみ用いられる動詞もあって、このような用法を本質的用法と呼んでいます。

Ex. 次の文の代名動詞がどの用法なのか考えてみましょう。

Ils se regardent l'un l'autre.

Je me promenais dans ce parc à ce moment.

Cet ordinateur se vend très bien.

(→ 解答は50ページ)

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【代名動詞の近接未来形と複合過去形】

1. 代名動詞の不定法は se をつけて示されますが (se promener)、実際の文中では se を主語に応じた代名詞に変えて用います。例：Je dois me lever tôt. 「早く起きなければなりません」。Je vais me lever tôt demain. 「あすは早く起きるつもりです」。Nous aimerions nous coucher tôt. 「早く寝たいのですが」。

2. 代名動詞を複合過去形などの複合時制で用いるときの助動詞は être です。したがって主語と過去分詞はふつう性数一致をします。ただし、代名詞が間接目的語の場合は性数一致の必要はありません。例：Elle s'est lavé les mains. 「彼女は手を洗いました」。(この文の直接目的語は「手」les

mains です。代名詞 s' (=se) は「私における(手)」を示す間接目的語としてみなされます。)

3. 複合時制で用いられている代名動詞の否定形は、代名詞と助動詞 être を ne... pas ではさみます。Il ne s'est pas excusé. 「彼は謝りませんでした」。また、「かたい表現」の疑問形は主語と代名詞・助動詞 être を倒置します。S'est-il souvenu du rendez-vous ? 「彼は約束を覚えましたか？」。

Leçon 14

関係代名詞

Les pronoms relatifs

→ 教科書 pp.64 – 67

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【関係代名詞 qui / que】

1. 関係代名詞はある名詞とその名詞を説明する文とを結び役割を果たします。このときの名詞を先行詞、説明の文を形容詞節と呼び、形の異なる関係代名詞を用いて両者の関わり方を示しています。

2. 先行詞が形容詞節の主語となる場合は関係代名詞 qui が用いられます。これに対して先行詞が形容詞節の直接目的語になる場合は、関係代名詞 que (qu') が用いられます。いずれの場合も先行詞は人でも事物でもかまいません。

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 関係代名詞が前置詞を伴って用いられるとき、先行詞が人の場合は「前置詞+qui」、事物の場合は「前置詞+lequel 型の関係代名詞」が用いられます。lequel 型の関係代名詞は、先行詞が男性単数名詞の場合には lequel、女性単数には laquelle、男性複数には lesquels、女性複数には lesquelles というように使い分けが必要です。

Le monsieur avec qui il parle est son prof. 「彼が話している人物は彼の先生ですよ」。

C'est l'appartement dans lequel elle habite. 「それは彼女が住んでいるマンションです」。

Ex. () の中に入る「前置詞+lequel 型の関係代名詞」が何か考えてみましょう。

C'est la raison pour () elle reste au Japon.

(→ 解答は50ページ)

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【関係代名詞 où, dont】

1. 先行詞が場所や時をあらわす場合は関係代名詞 où が用いられます。où は英語の when と where の両方の役割を担っていると考えてください。

2. 前置詞 de を伴う関係代名詞は dont という特別な形が用いられます。

■ ポイント2：もっと詳しく...

1. lequel 型の関係代名詞が前置詞 à を伴う場合は以下のよう縮約が起こります。

à lequel → auquel / à laquelle → à laquelle

à lesquels → auxquels / à lesquelles → auxquelles

また、前置詞 de を伴う場合は以下のようになります。

de lequel → duquel / de laquelle → de laquelle

de lesquels → desquels / de lesquelles → desquelles

Ex. ()の中に正しい関係代名詞を入れましょう。

J'ai une lettre () je dois répondre promptement.

(→ 解答は 50 ページ)

Leçon 15

比較級・最上級と指示形容詞

Le comparatif, le superlatif et les adjectifs démonstratifs

→ 教科書 pp.68 - 71

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【比較級、指示形容詞】

1. 形容詞や副詞の比較級は plus 「もっと多く」(moins 「より少なく」、aussi 「同じくらい」)と 接続詞の que 「～よりも」で形容詞や副詞をはさんで作ります。例：Il est plus grand que moi. 「彼は私よりも背が高いです」。

2. 名詞の比較級も副詞や形容詞とよく似た作り方をしますが、「同じくらい」という表現に aussi ではなく autant が用いられる点と、副詞や形容詞の場合には「ブリュ」と発音されていた plus の語尾の s が発音される点が異なります。なお、数えられる名詞は複数形にします。例：Il y a plus de travail. 「より多くの仕事があります」。Il y a moins de chômeurs. 「失業者はより少ないです」。

3. 動詞には plus、moins、autant など数量副詞の比較級をつけて比較の表現をつくります。名詞の場合と同様に plus の語尾の s が発音されます。「～よりも」という比較の対象をしめす接続詞としてここでも que が用いられます。例：Il travaille plus que moi. 「彼は私よりも働きます」。

4. 指示形容詞はそれが指す名詞の性数に応じて形が変わります。また、特に遠近を表現したい場合は -ci (近くのもの)、-là (遠くのもの) を名詞の後につけて区別します。ce livre-ci 「ここのこの本」、ce livre-là 「あそこのあの本」

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 特殊な比較級を持つ形容詞・副詞もあります。

<形容詞> 比較級

bon (良い、美味しい) → meilleur

mauvais (悪い、不味い) → pire

<副詞>

bien (良く、上手に) → mieux

beaucoup (多く) → plus

peu (少なく) → moins

Ex. 「Charles よりも上手に」という意味の比較級の文に書き換えてみましょう。

Elle parle bien anglais. (→ 解答は 50 ページ)

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【最上級】

1. 最上級は比較級で用いた plus や moins の前に定冠詞をつけて作ります。形容詞の場合はその形容詞が修飾する名詞の性別と数に応じて定冠詞の le、la、les を使い分けます。形容詞以外の副詞や名詞につける定冠詞は常に le になります。また比較の対象を示す「～の中で」という表現には多くの場合、前置詞の de が用いられます。

2. すでに Leçon 6 で学んだように、フランス語の多くの形容詞は名詞の後ろに置かれて用いられますが、その場合の最上級は定冠詞、名詞、最上級にされた形容詞(定冠詞 + plus / moins + 形容詞)という語順になります。

例：une maison confortable → la maison la plus confortable

また、bon、beau、petit、grand などの日常的によく用いる短い形容詞は名詞の前に置かれますが、通常その場合の最上級は、最上級にされた形容詞(定冠詞 + plus / moins + 形容詞)、名詞の語順となります。

例：une belle maison → la plus belle maison

■ ポイント2：もっと詳しく...

1. 最上級の作り方は、特殊な比較級を持つ形容詞・副詞の場合でも同じです。

Elle est la meilleure étudiante de la classe.

2. 形容詞の最上級の語順：

形容詞には叙述用法と限定用法の 2 つの用法があります。用法によって最上級をとるときの語順が以下のように変わるので注意しましょう。教科書内の例では、形容詞の叙述用法(例：Il est grand.) がとられています。

①叙述用法の場合：

「Ils sont intelligents. 彼らは利口だ。」

→ Ces étudiants sont les plus intelligents.

le		
la	plus	
les	moins	+ 形容詞

②限定用法の場合：

「des étudiants intelligents 利口な学生たち」

→ les étudiants les plus intelligents de la classe

le		le		
la	+ 名詞	la	plus	
les		les	moins	+ 形容詞

3. 形容詞の限定用法の前置修飾と後置修飾：

限定用法のとき、形容詞の大部分は名詞の後ろに置かれます（後置修飾）。例：un étudiant intelligent 「利口な学生」、une maison confortable 「快適な家」

この場合は、最上級をとるときの語順は1つに限られます。（上記「②限定用法の場合」を参照）

例：J'ai une maison confortable.

「私は快適な家を持っています。」

→ C'est la maison la plus confortable du quartier.

「この地区で一番快適な家です。」

一方、通常名詞の前に置く形容詞もあります（前置修飾）。beau、vieux、grand などです。このような形容詞が最上級をとるときの語順には2通りあります。後置修飾の場合と同じように名詞の後に形容詞を置くこともできますし、名詞の前に置くこともできます。

例：J'ai une belle maison.

「私はきれいな家を持っています。」

→ C'est la maison la plus belle du quartier.

「この地区で一番きれいな家です。」（名詞の後）

→ C'est la plus belle maison du quartier.

「この地区で一番きれいな家です。」（名詞の前）

Ex. 「家族 famille (女) の中で一番上手に」という意味の最上級の文に書き換えてみましょう。

Elle chante bien. (→ 解答は 50 ページ)

Leçon 16

条件法と命令法

Le conditionnel et l'impératif

→ 教科書 pp.72 – 75

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【条件法の作り方、条件法でよく使われる用法 ①仮定 ②婉曲表現】

1. 条件法現在形は直説法単純未来形の語幹に直説法半過去形の語尾を付けて作ります。

2. 現実の出来事を語るための語法である直説法に対して、条件法は現実化していない出来事を語る語法です。そのため、条件法は仮定の出来事を述べる構文の中にしばしば用いられます。これを現在の反実とか、過去の反実とか呼んでいます。

3. 反実表現の構文で使われるほかに、条件法は単独で用いられ、語気を和らげたり、推測を言い表したりします。

4. 以下の2つの構文はとてもよく似ているので、混同しないようにしましょう。

① Si j'avais assez d'argent, je passerais le permis. (半過去 + 条件法)

「もし十分なお金があったら、免許を取るのになあ。」

② Si j'ai assez d'argent, je passerai le permis.

(現在 + 未来)

「もし十分なお金があったら、免許を取るだろう。」

①が仮定的な状況を表すのに対して、②は未来の現実的な可能性を表します。

英語と比較してみるのも良いでしょう。

① Si j'avais assez d'argent, je passerais le permis.

= If I had enough money, I would take the driving license.

② Si j'ai assez d'argent, je passerai le permis.

= If I have enough money, I will take the driving license.

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 条件法過去形は、助動詞 (avoir, être) を条件法現在形で活用させ、本来の動詞の過去分詞と組み合わせて作ります。助動詞 (avoir, être) の選択や、être を用いた場合の主語と過去分詞の性数一致などは、他の複合時制の場合と同じです。

2. 現在の反実を言うための構文は Si + 半過去形、条件法現在形ですが、過去の反実を言うためには Si + 大過去形、条件法過去形という構文を使います。

Si j'étais libre, je partirais en vacances. 「もし暇があればヴァカンスに行くことだろうに」(実際には暇がないのでヴァカンスには行けない。現在の反実)

Si j'avais été libre, je serais parti en vacances. 「暇があったらヴァカンスに行ったことだろうに」(実際には暇がなかったため、ヴァカンスには行けなかった。過去の反実)

Ex. 次の文を過去の反実をあらわす文に書き換えましょう。

Si j'étais riche, j'achèterais une Rolls.

⇒ A ce moment-là, si _____

(→ 解答は50ページ)

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【命令法の作り方、代名動詞の命令法の作り方】

1. フランス語の命令法はいくつかの例外を除いて tu と nous と vous の直説法現在形の活用から作られ、3 つの異なるニュアンスを表現することができます。いずれの場合も主語の人称代名詞は除かれます。

① tu / vous の活用を主語の代名詞を除いて言うと、「～しなさい」「～して下さい」という命令の意味になります。

なお -er 型規則動詞や不規則動詞 aller の tu の活用語尾は -s となりますが、命令法ではこの -s は除きます。

② nous の活用からは、「～しましょう」という相手を勧誘する表現を作ることができます。

なお、これらの 3 つの命令法の表現を ne ... pas ではさむとそれぞれ否定の意味の表現に変わります。

例：Ne regarde pas ! / Ne regardez pas !

「見ないでください！」

Ne regardons pas ! 「見ないようにしましょう！」

2. 代名動詞の命令法でも主語人称代名詞を除きます。肯定命令文では目的語代名詞が動詞の後に置かれ、トレニデュニオンで結ばれます。その際leはtoiに変えられます。nous とvousはそのまま用います。

例：Lève-toi ! / Levez-vous ! 「起きてください！」 Levons-nous ! 「起きましょう！」

3. 相手を tu で呼ぶときは、命令法もtuの活用を使います。相手を vous で呼ぶ時は、命令法も vous の活用を使います。尚、自分より年上の人や社会的地位が高い人を tu で呼ぶ場合もありますが、そのようなときに相手への敬意や礼儀を示したいときは、声のトーンや態度で表現したり、また命令法の響きを和らげる役割を持つ

「s'il te plaît / s'il vous plaît」を付け加えます。

4. tu の活用の命令法に代名詞が続いている場合、リエゾンをするためにsを加えます。

Va → vas-y

Mange → manges-en

■ ポイント2：もっと詳しく...

1. être (命令法：sois, soyons, soyez) や avoir (命令法：aie, ayons, ayez) などは特別な命令法の形をもつので注意しましょう。

Leçon 17

接続法

Le subjonctif

→ 教科書 pp.76 – 79

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【接続法の作り方】

1. 多くの動詞の接続法現在形は、直説法現在形の 3 人称複数形(ils/elles)の活用から語尾の-ent を除いたものに、接続法現在形の活用語尾 (-e, -es, -e, -ions, -iez, -ent) をつけて作ります。結果として -er 型規則動詞などでは直説法の現在形や半過去形と同じ形になります。また vouloir などのように特別な語幹を持つものや、avoir, être などのように特別な語幹と活用語尾を持つものもあるので注意が必要です。

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 接続法過去形は助動詞 (avoir, être) の接続法現在形と本来の動詞の過去分詞を組み合わせで作ります。avoir と être のどちらを助動詞にするかの選択や、être を助動詞とした場合の主語と過去分詞の性数一致などは他の複合形態の時制の場合と同じです。

2. 接続法過去形は接続法を必要とする従属節中において、行為が完了していることを表わします。

例：Je regrette qu'elle soit partie sans dire un mot.

「私は彼女が私に一言も告げないまま出発してしまったことを残念に思っています」。

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【接続法の使い方】

1. 接続法は話し手の主観や感情を言い表わす文中で、主に従属節の中で用いられます。この意味で、まだ現実化されていない観念を表現する語法だと言うことができます。

2. 主節が願望や疑惑、さまざまな感情を表現する場合の従属節(名詞節)の動詞は接続法になります。また Il faut que... など主節が必要を表わす表現の場合も従属節の動詞は接続法になります。

3. avant que, pour que などをはじめとする接続詞句に導かれる従属節(副詞節)の動詞は接続法になります。

4. 主節と従属節の主語が同じ場合は、例えば「Je voudrais que j'aille en France.」とは言わずに、「Je voudrais aller en France.」と言います。以下の例で確認しましょう。

Je voudrais aller en France.

「私はフランスに行きたいです」。

Je voudrais que tu ailles en France.

「私はあなたにフランスに行って欲しいです」。

■ ポイント2：もっと詳しく...

1. 関係代名詞が用いられる文で、先行詞が最上級におかれる場合などでは、形容詞節の動詞は接続法になります。
2. 従属節の動詞が接続法にされる文ではしばしば「虚辞の ne」が用いられます。Je crains que Marie ne soit malade. 「マリが病気ではないかと心配している」。
3. 独立節で用いられる接続法は願望や命令などを表わします。

例：Vive la France! 「フランス万歳!」
Qu'il entre! 「入りたまえ!」

Ex. 下線の動詞を適切な形に書き改めて、文を書きましよう。

① Je doute qu'il venir à huit heures.

② C'est le meilleur restaurant que je connaître.

(→ 解答は 50 ページ)

Leçon 18

現在分詞・ジェロンディフと単純過去形 Le participe présent, le gérondif et le passé simple

→ 教科書 pp.80 - 83

■ ポイント1 のメモ Mémos Point 1 :

【現在分詞とジェロンディフ】

1. 多くの場合、直説法現在一人称複数形つまり nous の活用から語尾の-ons を取り除き、代わりに-ant を付けると現在分詞になります。例外的な動詞もあるので注意しましょう。
2. フランス語の現在分詞は名詞を修飾する形容詞的役割を果たし、関係代名詞節に代わることができます。ただし主語を修飾することはできません。

J'ai vu un garçon traversant la rue.
「通りを渡る少年を私は見た」。

= J'ai vu un garçon qui traversait la rue.

3. 分詞構文として同時性、原因、条件、譲歩などを表わすことができます。またそれ自体の主語を持つ絶対分詞構文を作ることもあります。

例：Travaillant bien, tu pourras réussir à cet examen.
「よく勉強すれば、君はこの試験に合格できるだろう。」
Son professeur étant sévère, il doit travailler sans cesse.
「先生が厳しいので、彼は絶えず勉強しなければなりません。」

4. 現在分詞を前置詞 en とともに用いると、動詞を修飾する副詞のような役割になって、同時性、原因、条件、譲歩、手

段などを表わすことができます。このような現在分詞の使い方をジェロンディフと呼び、主語は常に主節の主語と同じです。

J'ai vu un garçon en traversant la rue.
「通りを渡っているときに、私は少年を見た」。

■ ポイント1：もっと詳しく...

1. 主文の動詞に対して完了した行為を表現するために現在分詞を複合形で用いることがあります。複合形は avoir、être の現在分詞と本来の動詞の過去分詞で作ることができます。avoir、être の選択や、être を用いた場合の性数変化は他の複合形態の時制の場合と同様です。

例：Ayant fini mes devoirs, je sortirai avec mes amis. 「宿題をし終えたら、友達と出かけよう」。

Ex. 次の文を現在分詞を用いた文に書き改めましよう。

① C'est une fenêtre qui donne sur la mer.

② J'ai rencontré Marie qui avait terminé son travail.

(→ 解答は50ページ)

■ ポイント2 のメモ Mémos Point 2 :

【単純過去形】

1. 歴史書や物語などの書き言葉では、事件や出来事を語る時複合過去形に代わって単純過去形が使われます。
2. 活用は複雑ですが、おおむね aimer, finir, avoir, être, venir の単純過去形の活用タイプいずれかに準じます。

<練習問題 (Ex) の回答>

■ Leçon 1

ポイント 1 : « On y va ? » → さあ行こうか？

ポイント 2 : « L'homme n'est qu'un roseau. » → 人間は一本の葦でしかない。

■ Leçon 2

ポイント 2 :

① Vous n'êtes pas japonais(e) ?

→ Si. (je suis japonais(e).)

② Vous n'êtes pas marié(e) ?

→ Non. (je ne suis pas marié(e).)

■ Leçon 3

ポイント 1 : Elle parle (avec qui) ? — Elle parle avec son prof.

ポイント 2 : あなたはペンが要りますか？

→ Est-ce que tu as besoin d'un stylo ?

■ Leçon 4

ポイント 2 :

Il reste encore du café dans le pot ?

— (例) Oui, il en reste encore un peu.

■ Leçon 5

ポイント 2 :

Le lion n'est pas un animal domestique.

■ Leçon 6

ポイント 2 : de nouveaux vélos

■ Leçon 7

ポイント 2 :

Tu me prêtes ce dictionnaire ? → Tu me le prêtes ?

■ Leçon 8

ポイント 2 :

① La Suisse est (à l'est) de la France.

② Nice est (dans le sud) de la France.

■ Leçon 9

ポイント 1 : Tu te souviens bien de ton enfance ?

— Oui, je m'en souviens très bien.

ポイント 2 : J'ai aperçu Catherine au cinéma hier.

→ Je l'y ai aperçue hier.

■ Leçon 10

ポイント 1 : Paul m'a prêté son vélo.

→ Paul me l'a prêté.

ポイント 2 :

Elle est née en quelle année ? → Elle est née en 1980.

A quelle heure est-ce que tu es venu ici ce matin ?

→ Je suis venu ici à dix heures.

■ Leçon 11

ポイント 1 : Quand je suis arrivé au cinéma hier soir, la projection avait déjà commencé.

■ Leçon 12

ポイント 1 : Georges allait partir pour l'Italie.

ポイント 2 : Il aura fini son travail avant midi.

■ Leçon 13

ポイント 1 :

Ils se regardent l'un l'autre. → 相互用法

Je me promenais dans ce parc à ce moment.

→ 再帰用法

Cet ordinateur se vend très bien. → 受動的用法

■ Leçon 14

ポイント 1 : C'est la raison pour (laquelle) elle reste au Japon.

ポイント 2 : J'ai une lettre (à laquelle) je dois répondre promptement.

■ Leçon 15

ポイント 1 : Elle parle anglais mieux que Charles.

ポイント 2 : C'est elle qui chante le mieux de la famille.

■ Leçon 16

ポイント 1 : A ce moment-là, si j'avais été riche, j'aurais acheté une Rolls.

■ Leçon 17

ポイント 2 :

① Je doute qu'il viene à huit heures.

② C'est le meilleur restaurant que je connaisse.

■ Leçon 18

ポイント 2 :

① C'est une fenêtre donnant sur la mer.

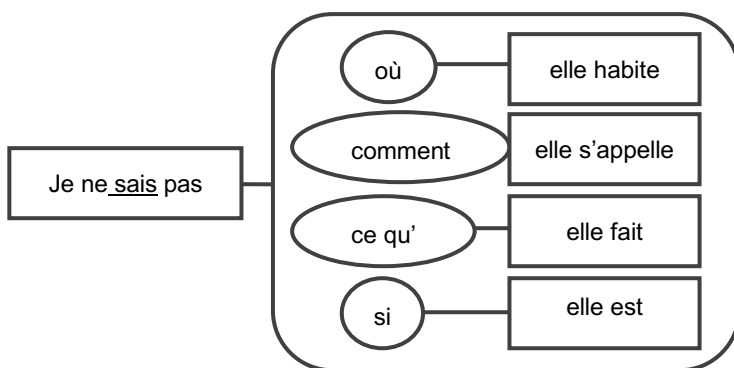
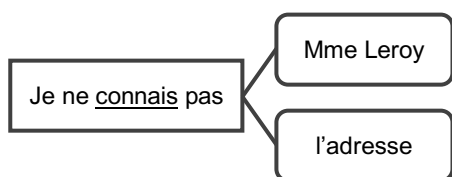
② J'ai rencontré Marie ayant terminé son travail.

connaître と savoir の使い分け L'utilisation de « connaître » et « savoir »

connaître	+	名前 名詞
------------------	---	----------

savoir	+	où	～がどこかを	← Où
		comment	～がどうかを	← Comment
		ce que	～が何かを	← Qu'est-ce que...
		si	～かどうかを	← Est-ce que... (oui / non)

■ 使い方の例



<日本語訳>

- Je ne connais pas Mme Leroy.
私はルロワさんを知りません。
- Je ne connais pas l'adresse.
私は住所を知りません。
- Je ne sais pas où elle habite.
私は彼女がどこに住んでいるか知りません。
- Je ne sais pas comment elle s'appelle.
私は彼女が何という名前か知りません。
- Je ne sais pas ce qu'elle fait.
私は彼女が何をしているか知りません。
- Je ne sais pas si elle est mariée.
私は彼女が結婚しているかどうか知りません。

<解説>

フランス語には、「知っている・わかる」という意味の動詞が 2 つあります。「connaître」は普通名詞か固有名詞と一緒に使い、「savoir」は où, comment, pourquoi などと一緒に使います。これが絶対のルールというわけではありませんが、この 2 つの動詞を使えるようになるためのシンプルなルールとして覚えましょう。

例 1 :- Est-ce que vous savez combien de temps ça prend de Tokyo à Paris ? (東京からパリまでどのくらいの時間がかかるか知っていますか？)

- Est-ce que vous savez où il habite ? (彼がどこに住んでいるか知っていますか？) ※ 語順に注意しましょう

答え : Non, je ne sais pas. (いいえ、わかりません。)

例 2 :- Est-ce que vous connaissez Paris ? (固有名詞 : パリを知っていますか？)

- Est-ce que vous connaissez le chemin ? (普通名詞 : 道がわかりますか？)
答え : Non, je ne le connais pas. (いいえ、わかりません。)

■ 練習問題 1

次の文中で、connaître と savoir のうち、適切な方を選びましょう。

1. Est-ce que tu connais / sais le prof de maths ?
2. Je ne connais / sais pas où est la bibliothèque.
3. Connaissez-vous / savez-vous si on a cours de français, aujourd'hui ?
4. Vous connaissez / savez San Francisco ?

■ 練習問題 2

フランス語で自分のノートに書いてみましょう。

1. 彼がどうやって大学に来るかを知っていますか？
(vous / 標準的な言い方)
2. ウディ・アレン (Woody Allen) を知りません。誰ですか？
3. マドリッドを知っていますか？
(vous / かたい言い方)
4. 彼女たちがどこに住んでいるか知ってる？
(tu / くだけた言い方)

曜日・数字などの単語一覧 Chiffres, mois, jours de la semaine, saisons

1. 曜日・月・四季の表現 Jours de la semaine, mois et saisons

■ 曜日	■ 月	■ 四季
月曜日 lundi	1 月 janvier	春 le printemps
火曜日 mardi	2 月 février	夏 l'été
水曜日 mercredi	3 月 mars	秋 l'automne
木曜日 jeudi	4 月 avril	冬 l'hiver
金曜日 vendredi	5 月 mai	
土曜日 samedi	6 月 juin	
日曜日 dimanche	7 月 juillet	
	8 月 août	
	9 月 septembre	
	10 月 octobre	
	11 月 novembre	
	12 月 décembre	

2. 数字 Chiffres

■ 1～20	※ 発音の注意 Prononciations particulières
0 zéro	母音で始まる名詞の前に来た時 avant voyelles → リエゾンする liaison
1 un(e)	子音で始まる名詞の前に来た時 avant consonnes → 最後の文字は発音しない On ne prononce pas la dernière lettre.
2 deux	
3 trois	
4 quatre	
5 cinq	
6 six	
7 sept	
8 huit	
9 neuf	
10 dix	
11 onze	
12 douze	
13 treize	
14 quatorze	
15 quinze	
16 seize	
17 dix-sept	
18 dix-huit	
19 dix-neuf	
20 vingt	

■ 20～	■ 200～
20 vingt	200 deux cents
30 trente	1 000 mille
40 quarante	10 000 dix mille
50 cinquante	100 000 cent mille
60 soixante	1 000 000 un million
70 soixante-dix	
80 quatre-vingts	
90 quatre-vingt-dix	
100 cent	
21 vingt-et-un	
31 trente-et-un	
41 quarante-et-un	
51 cinquante-et-un	
61 soixante-et-un	
71 soixante-et-onze	
81 quatre-vingt-un	
91 quatre-vingt-onze	
101 cent un	
22 vingt-deux	
32 trente-deux	
42 quarante-deux	
52 cinquante-deux	
62 soixante-deux	
72 soixante-douze	
82 quatre-vingt-deux	
92 quatre-vingt-douze	
102 cent deux	